

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4072100284		
法人名	株式会社 山田桜の郷		
事業所名	グループホーム やまだ桜の郷		
所在地 (電話番号)	〒821-0011 福岡県嘉麻市下山田715-1 (電話)0948-53-1278		
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴二丁目5-27		
訪問調査日	平成21年12月3日	評価確定日	平成21年12月23日

## 【情報提供票より】(平成21年11月11日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年11月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17	常勤(専任 13人 兼務 4人) 非常勤 0人 常勤換算 15人	

### (2) 建物概要

建物形態	単独型	築 4年
建物構造	木造瓦葺 造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	光熱水道費他 19,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (100,000 円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

### (4) 利用者の概要(平成21年11月11日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	6 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.3 歳	最低	75 歳	最高	98 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	・吉原医院	・嘉麻日赤病院	・松岡病院
---------	-------	---------	-------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大法白馬山一帯に赤、黄、緑の鮮やかな紅葉が、周りを囲み、落ち着いた静かな空間を演出し、露天風呂、リハビリ施設完備のデイサービスと併設したグループホームやまだ桜の郷がある。「地域社会の中で、利用者一人ひとりが、家庭的で、心のケアに気を配り、自分らしく生きる姿を温かく見守り、充実した生活を支援していく」というホーム理念を職員全員で理解し、実践できるように工夫している。施設長は看護師の経験を活かし、利用者の健康状態を細やかに観察し、状況に応じて的確な判断で、俊敏に行動し、家族の信頼も厚い。また、自治会に加入し、かかし祭り、トロッコ祭り等に利用者と職員が参加し、獅子舞、太鼓演奏や地域住民によるボランティア活動や中学生の体験学習等、地域密着型ホームとして交流の輪を図っている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点は10件であったが施設長、管理者、職員が丸となって取り組んだ結果6件が改善出来ている。「評価の意義と理解と活用」「運営に関する家族等意見の反映」「人権教育・啓発活動」「重度化や終末期に向けた方針の共有」の4件が今後の課題として取り組まれることが望まれる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は各ユニットの管理者がまとめて作成している。職員に評価の意義を説明し、理解してもらい、評価結果をホームの改善の指針として、全員で取り組んでいる。今後は自己評価を職員が分担して記入し、会議で話し合い、管理者が取りまとめて作成し、全員で自己評価作成に関わっていくことが望まれる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	会議は、利用者家族、地域代表、行政職員、ホーム代表、施設長、管理者、職員が参加し、2ヶ月毎に開催している。家族の出席が多く、意見、要望、質問等が出され、ホームの現状や行事など運営に関する報告を行い、活発な意見交換の場になっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	玄関に意見箱を設置し、苦情受付窓口を内部と外部に分けて掲示しているが、家族からの苦情は皆無である。家族の心情を理解し、家族だけで話し合える家族会を発足して、意見や苦情、協力体制等が、気軽に話せる雰囲気にしていくことが望まれる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、かかし祭り、トロッコ祭りに利用者と職員が参加し、地域の獅子舞、太鼓演奏、ボランティア活動、中学生の体験学習等の来訪があり、地域との交流を図っている。また、地域における健康や介護の相談窓口として取り組んでいくことを計画中である。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域社会の中で人と人とのふれあいを大切にします」という理念を掲げ、地域の中でその人らしく安心して暮らしていくことを支援している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	目に付くところに理念を掲示したり、職員のネームプレートの裏に理念を明示するなど、常に意識付けしながら理念を共有し、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学生が、ホームの中庭にある地層の見学に訪れたり、中学生の職場体験、地域の獅子舞、太鼓の演奏など地域の人々がホームを訪れ活発に交流している。また、近所の洋品店による出前販売があり、利用者は自分で好きなものを選んで買い物することを楽しみにしている。		
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は各ユニットの管理者がまとめ、作成している。職員に評価の意義を説明し理解してもらい、評価結果をホームの改善のための指針として、全員で取り組んでいる。	○	自己評価を職員が分担して記入し、会議で話し合い、管理者が取りまとめて作成して、全員で自己評価作成に関わっていくことが望まれる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は、利用者家族、行政職員、ホーム代表、施設長、管理者、職員が参加し、2ヶ月毎に開催している。家族の出席が多く、意見、要望、質問等が出て、ホーム側からは現状、行事、運営に関する報告を行い、活発な意見交換の場になっている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長が積極的に市役所に出向き、連携に努めている。また、「ケア木」学習会を事業所持ち回りで開催し、情報交換を行い、市町村と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	権利擁護に関する制度の理解活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	今現在、制度を利用している人はいないが、権利擁護に関するパンフレットなど、資料を揃え、利用者、家族が必要なきにいつでも説明できる体制作りに取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一回、「桜の郷新聞」を発行し、利用者の暮らしぶり、職員の異動などを報告している。また、金銭管理については、出納帳の写しと領収書を送付し報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、ホームと外部機関の苦情受付窓口を掲示している。家族からの苦情はほとんどない。	○	家族の心情を理解し、家族同士で悩みや心配事等、話し合える家族会を醸成し、家族会としての意見や苦情、協力等が気軽に言えるようにしていくことが望まれる。
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の安心した暮らしを守るため、家族の要望もあり、職員の異動は極力控えている。やむを得ず代わる場合は、引継ぎの期間を設け、利用者のダメージを防ぐよう努力している。		
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障	職員の採用にあたっては、性別、年齢で差別することではなく、本人の介護職への意気込みや情熱で採用している。また、事業所で働く職員については、資格取得や研修会への参加など、その能力を發揮し、生き生きと働けるよう配慮している。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりこんでいる	ミーティングの中で、人権について話し合い、利用者の人権を尊重するため、職員全体の意識の向上に努めている。	○	行政等が、主催する人権の研修会等に積極的に参加し、それをもとに内部で勉強会を行い、人権教育・啓発活動に取り組むことが望まれる。
5. 人材の育成と支援					
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者、および施設長は、職員一人ひとりの、経験年数や習熟度に合わせた研修への参加を勧めたり、資格の取得を応援し、職員全体のレベルアップに向けて積極的に取り組んでいる。また、ベテランの職員が新人の職員に働きながら教えている姿も見られる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「ケア木」学習会を地域の事業所で持ち回りで開催し、情報交換や意見交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居する前に、何度か利用者、家族と一緒にホームを見学して頂き、少しずつ慣れてもらい、本人、家族が、安心、納得した上でサービスの開始に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は、シフトの関係で、数日顔を見なかった職員に「どっか悪かったんじゃないんね」と心配して声をかけてくれたり、近所からの差し入れの白菜で、利用者職員と一緒に漬物を作ったりしながら、学んだり、支え合う関係を築いている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、利用者、家族の希望、意向を聞き取り、把握に努めている。困難な場合は、利用者の言葉、表情から読み取り本人の希望に添えるように工夫している。。		
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を作成するにあたって、家族に介護希望用紙の記入をお願いするなど、意見を取り入れながら職員全員で話し合い、介護計画を作成している。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3カ月毎に見直し、定期的にモニタリングを行い、利用者の状態の変化に応じ、その都度見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	職員に看護師が常勤しているので、安心できる健康管理が行われている。また、リハビリ専門員による体操や、機械を使ったリハビリ、口腔体操を実施し、機能低下の防止に努めている。地下水を利用した露天風呂や大浴場、ゆったり広々とした庭園は、利用者の大きな楽しみとなっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望に添って受診支援を行っているが、ホームの提携医の訪問診療も毎週行い、職員に看護師がいることで、安心して適切な医療が受けられている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所として、重度化や終末期に、何が出来るのかを見極め、利用者や家族にとって、安心できる方法を、関係者間で常に話し合いながら支援しているが、ターミナルケアの指針はない。	○	重度化、終末期に向けた指針を作成し、利用者、家族、医療機関と十分に話し合い、利用者、家族が安心してサービスが受けられるよう、全員で方針を共有していくことが望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないよう、言葉かけ、対応に配慮している。また、個人情報の取り扱いにも細心の注意を払っている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの、その日の体調や気分を大切に、出来る限り利用者のペースに合わせた暮らしを支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞きながら献立を作成している。一人ひとりの力を活かしながら、買い物、野菜の皮むきなどの下準備、食器洗いなど、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けを、楽しそうにしている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日や時間帯は一応決めているが、希望があれば出来る範囲で対応している。拒否される利用者に対しては、時間をかけてゆっくりと声かけし、入浴を楽しめるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者、一人ひとりの力に応じて、台拭き、下膳、食器洗い、洗濯物干し、たたみ、花の水やりなどの役割を分担している。また、折り紙、貼り絵など、楽しみごと、気晴らしの支援もしている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	芝生が敷き詰められた中庭を散歩したり、ホームの周りの素晴らしい紅葉を眺めながらの散歩、外食など、一人ひとりのその日の希望に添って外出の支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施設長、管理者、職員は、日中鍵をかけることの弊害をよく理解し、日頃は鍵をかけないケアに取り組んでいるが、職員の人数の都合で利用者の安全のために状況に応じて鍵をかける時もある。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月に一度、夜間を想定した防火避難訓練を実施している。訓練の日時は職員にも知らされないで、緊張感があり、良い結果に繋がっている。また、災害時に備えて、非常食・飲料水の備蓄も行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの状態に合わせた形態で(キザミ食・トロミ食等)食事を提供している。食事の摂取量、水分量は記録し、職員が状態を把握し、それぞれに応じた支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	桜の香りが漂い、天窓からの採光で明るく開放的な造りである。芝生が敷き詰められた広々とした中庭にはベンチが置かれ、ホームの周りの紅葉を眺められる憩いの場となっている。また、デイサービスと共用の露天風呂は利用者の大きな楽しみとなっている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人と家族と相談しながら、利用者の馴染みの家具や仏壇などを持ち込んでもらい、居心地よく過ごせるよう工夫している。		